

ヘーゲル『論理学』初版（1812年）380段落～387段落

段落	文	頁	行	原文	神山訳	寺沢訳
		130	1 2 3	Zweyter Abschnitt. Größe. (Quantität)	第2編 大きさ (量)	第二編 大きさ(量)
380	1		4 5	Der Unterschied der Quantität von der Qualität ist so eben angegeben worden.	量と質との区別は、たったいま跡づけられたところである。	質と量との区別はちょうどいまさきに述べた。
	2		5 6 7 8	Die Qualität ist die erste, unmittelbare Bestimmtheit, die Quantität ist die Bestimmtheit, die dem Seyn gleichgültig geworden, eine Grenze, die eben so sehr keine ist.	質は、第一の直接的な規定態であるが、量は、存在に無関心になった規定態であり、限界ではあるが、「同じ程度にいかなる限界でもない」といった限界である。	質は最初の・直接的な規定態であり、量は存在に無関心的になっている規定態、また同じくいかなる限界でもない限界である。
381	1		9 10 11	Das Seyn hat die Bestimmung erhalten, die einfache Gleichheit mit sich, in seinem Andersseyn und nur durch das Aufheben seines Andersseyns zu haben.	存在は、「みずからが〈他であること〉のかたちで、また、みずからが〈他であること〉を〈廃棄すること〉によるのみ、みずからとの単純な同等態を持つ」という規定を維持した。	存在は、その他在において・しかもその他在を揚棄する運動を通じてのみ自己との単一な相等性をもつという規定を獲得している。
382	1		12 13 14 15 16	Das Andersseyn und die Bestimmtheit, insofern sie in dieser Sphäre wieder hervortritt, ist daher nicht mehr als unmittelbare, bleibende, sondern als aufgehobene ² , etwas das nicht in einfacher Beziehung auf sich selbst, sondern vielmehr ein sich schlechthin Aeusserliches ist.	このことから、「〈他であること〉と規定態」は、量の領域でふたたび出現する場合、もはや〈直接的で永続するもの〉としてではなく、「〈廃棄されたもの〉としてあって、みずから自身に単純に〈関係する〉かたちのなにかではなく、むしろそれよりもみずからに端的に〈外面的なもの〉であるなにかである。	だから他在すなわち規定態は、それがこの〔量の〕領域でふたたび現われ得る限りでは、もはや直接的な・存続する規定態としてではなく、揚棄された規定態としてあり、自己自身への単一な関係のうちにあるのではなくて・むしろ自己にとって端的に外的なものであるそういった或るものである。
	2		16 17 18 19 20 21 22	Die Quantität ist die unendlich in sich zurückgekehrte Bestimmtheit; sie ist nicht mehr Seyn als Beziehung auf Anderes und als Nichtseyn eines Andern; die Bestimmtheit hat sich in ihrem Andersseyn, mit dem sie in Einheit ist, aufgehoben; und die Quantität ist die Gleichgültigkeit der Bestimmtheit.	量は、みずからへと無限に還帰した規定態である。量は、もはや、〈他のもの〉への関係である存在でもなければ、〈他のもの〉が〈ないこと〉である存在でもない。その規定態は、みずからが統一しているみずからの〈他であること〉の点で廃棄されてしまった。そうなるので、量は、規定態への無関心態である。	量は無限に自己へと還帰した規定態である。量はもはや他者への関係としての存在ではなく、また他者の非存在としての存在ではない。規定態は、他在との統一のうちにあるが、そういった自己の他在のなかで自己を揚棄してしまっている。こうして量は規定態の無関心性である。
	3		22	-- Insofern aber die Be-	——しかし、規定態は、こうしたみずか	——だが規定態は、そのこの統一から

¹ 次の註 2、3 を参照のこと。これは、「Das Andersseyn und die Bestimmtheit」を指示しているとみななければならない。
² 当然ながら、「Das Andersseyn und die Bestimmtheit」が主語であり、抽象的な名詞の並立ゆえ、単数で扱われている。
³ 主語および sie と連動して女性として扱われている。

ヘーゲル『論理学』初版（1812年）380段落～387段落

		131	1 2 3 4	stimmtheit als unterschieden von dieser ihrer Einheit wieder auftritt, so tritt sie auf als das, was sie in Wahrheit ist, nemlich schlechthin nur als in Einheit mit ihrem Andersseyn.	らの統一と区別されるものとして、ふたたび登場するかぎり、その〈真実のあり方〉をしているものとして登場するのであり、すなわち端的に、みずからの〈他であること〉と統一しているかたちとしてのみ登場するのである。	区別されたものとしてふたたび現われ得るその限りでは、それが真理態にあるものとして・すなわちもっぱらただその他在との統一のうちにあるものとして、現われ得るのである。
	4		4 5 6 7	Als Qualität sollte sie eine seyende, in einfacher Beziehung mit sich stehende seyn; aber als Quantität ist sie als die nur aufgehobene, äusserliche, nicht in sich, sondern im andern seyende Bestimmtheit.	しかし、規定態は、質としては、《みずからの単純な関係のうち立つ存在する規定態》であるとするなら、量としては、《廃棄されたにすぎない外面的な規定態》だから、《みずからのうちに存在する規定態》ではなく《〈他のもの〉のうちに存在する規定態》なのである。	規定態は質としては、自己との単一な関係のうちにある存在的な規定態であるべきであった。だがそれは量としては、ただ揚棄された・外的な・自己のうちではなく他者のうちにある規定態としてある。
383	1		8 9 10	Aber zunächst ist die reine Quantität von sich als bestimmter Quantität, vom Quantum zu unterscheiden.	ところで、まず最初に、【純粹な量】は、【規定された】量であるみずからとは区別されなければならない。つまり、【現数量】とは区別されなければならない。	しかしさしあたり純粹量は、規定された量としての自己から・すなわち定量から区別されるべきである。
384	1		11 12 13	Die Quantität ist erstens das in sich zurückgekehrte, reale Fürsichseyn, das noch keine Bestimmtheit an ihm hat; die gediegene unendliche Einheit.	【量】は、【第一に】、《みずからのうちに還帰した実在的な〈それだけで独立した存在〉》であり、これは、みずからのもとにまだなにも規定態を具えていない。つまり、《至純の無限な統一》である。	量は、第一に、自己へと還帰した実在的な向自存在であり、この向自存在はまだいかなる規定態をもそれのもとに〔顕在的に〕もっていない。〔それは〕しっかりした無限の統一〔である〕。
385	1		14 15 16	Diese geht zweytens in die Bestimmtheit über, aber in eine solche, die zugleich keine, nur äusserliche ist.	【第二に】、こうした量は、規定態に移行するが、《同時になんら規定態ではなくたんに外面的な規定態でしかない規定態》に移行する。	この無限の統一〔純粹量〕は、第二に、規定態へと移行するが、しかし〔規定態であると〕同時にいかなる規定態でもなく・ただ外的な規定態であるにすぎない・そういった規定態へと移行する。
	2		16	Sie wird Quantum.	こうした量は、【現数量】に成る。	〔こうして〕純粹量は定量になる。
	3		16 17 18 19	Das Quantum ist die gleichgültige Bestimmtheit, d. h. die über sich hinausgehende, sich selbst negirende; es wird als diß Andersseyn des Andersseyn unendlich.	現数量は、《無関心な（どうでもよい）規定態》である。すなわち、《みずからを超えて行く規定態》であり、《みずから自身を否定する規定態》である。現数量は、〈他であること〉のこうした〈他であること〉であるから、【無限なもの】に成る。	定量は無関心的な規定態である、すなわち自己をこえてゆき・自己自身を否定する規定態である。定量はこの他在の他在として無限になる。

ヘーゲル『論理学』初版（1812年）380段落～387段落

	4		19 20 21	Das unendliche Quantum aber ist die aufgehobene gleichgültige Bestimmtheit, oder es ist die Wiederherstellung der Qualität.	しかし、無限な現数量は、《廃棄された無関心な規定態》であり、いいかえれば、質を〈現状回復すること〉である。	しかし無限の定量は揚棄された無関心的な規定態である。換言すれば、それは質の回復である。
386	1		22 23	<i>Drittens</i> , das Quantum in qualitativer Form ist das quantitative <i>Verhältniß</i> .	【第三に】、質の形式での現数量は、量の【〈関わり（比）〉】である。	第三に、質の形態のうちにある定量は量的相関〔すなわち、比〕である。
	2		23 24 25 26 27 28	Das Quantum geht nur überhaupt über sich hinaus; im Verhältnisse aber geht es so über sich in sein Andersseyn hinaus, daß es in diesem seine Bestimmung hat, also zugleich in sich zurückgekehrt, und die Beziehung auf sich in seinem Andersseyn vorhanden ist.	現数量は、ただ一般的には、みずからを超えて行くものである。しかし、その〈関わり〉では、現数量は、みずからを超えて行ってみずからの〈他であること〉になる。だから、現数量は、この〈他であること〉の点でみずからの規定を持ち、したがって同時に、みずからに還帰したのであり、みずからへの関係は、みずからが〈他であること〉の点で現在する。	定量はただ一般的に自己をこえ出るにすぎない。だが比においては定量は、その他在へと自己をこえ出るのはあるが、しかしその他在のなかで自己の規定をもち、したがって〔この他在もまた一つの定量であることになるから、他在へと自己をこえ出ることによって〕同時に自己へと還帰するのであり、こうしてその他在のなかに自己への関係が現存している〔ことになる〕という、そういう仕方ですべての他在へと自己をこえ出るのである。
	3		28 29 30	Im Verhältnisse ist daher das Quantum in die Quantität zurückgekehrt, welche damit zugleich als Qualität bestimmt worden ist.	このことから、〈関わり〉では、現数量が量に還帰した。それとともに、同時に、この量は、質として規定された。	したがって比において定量は、同時に質としても規定されているところの量へと還帰しているのである。
387	1	132	1 2 3	Diesem Verhältnisse liegt noch die Gleichgültigkeit des Quantums zu Grunde, oder es ist nur formelle Einheit der Qualität und Quantität.	それでも、この〈関わり（比）〉の根柢には、現数量の無関心態がある。いいかえれば、この〈関わり〉は、質と量との形式的な統一にすぎない。	この比にはまだ定量の無関心性がその根柢に存している、換言すれば比は質と量との形式的な統一にすぎない。
	2		4 5 6	Die Bewegung des Verhältnisses ist sein Uebergang in ihre absolute Einheit in das <i>Maas</i> .	この〈関わり〉の運動は、質と量の絶対的な統一である【度】へとその〈関わり〉が〈移行すること〉である。	比の運動は両者の絶対的な統一への・すなわち度量への比の移行である。